

荒尾・玉名の
おいし
い
う
た

OISHII
UTSUWA





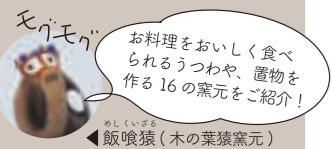
荒尾・玉名のうつわが彩る、おいしい食卓。



例えば和の鉢にフランスの煮込み料理、落ち着いたトーンのお皿には鮮やかなテリーヌ。熊本県荒尾市在住、「タブリエ」の小倉ゆかりさんがコーディネートするおいしい食卓には、様々なうつわたちの楽しい共演がありました。



大皿、お茶碗、取り皿、etc...「うつわの組み合わせを考えるのって、ちょっと難しそう…」いえいえ、ご心配なく。本誌掲載のバラエティ豊かなうつわたちは、メニューを問わず、素敵な食卓の強い味方です。



めしぐさ
◀飯喰猿(木の葉猿窯元)

目次

P6 五喜窯
P8 小岱焼末安窯
P10 小代焼中平窯
P12 小代焼ふもと窯
P14 小代瑞穂窯
P16 小代本谷ちひろ窯
P18 木の葉猿窯元
P20 小代焼岱平窯
P22 素月窯
P24 末吉窯
P26 陶房丸山
P28 小代松風焼野田窯
P30 三池焼
P32 小代焼一先窯
P34 田原弓陶房・美歩志窯
P36 まもる窯
P38 荒尾・玉名地域窯元振興会について

- ※各ページ アイコン内容
- ☎ 電話番号
 - F FAX番号
 - 🕒 営業時間
 - 🏠 店休日
 - P 駐車場
 - ✉ メールアドレス
 - 🏠 ホームページ
 - 🌐 通販サイト

📷 つづきはインスタで



作陶風景や作品など、インスタグラムでは更にたくさんの写真を楽しめます!

荒尾・玉名のおいしいうつわ | Q



家庭料理が似合う 素朴なうつわ

「荒尾・玉名のうつわは、素朴で力強い」と小倉さん。窯元が多い地域で暮らしているため、小代焼をはじめとするこの地域生まれのうつわは、自然と食卓へ仲間入りをしていきました。フランス料理に従事してきた小倉さんの食器棚には、もちろん白い磁器も並びます。一見、重宝しそうですが、実は盛り付けが難しいそう。一方、荒尾・玉名のうつわは、和・洋問わず、「家庭料理」との相性が良いと教えてくれました。

例えば、肉じゃがをざっと盛り付けただけでもうつわに柄や色があるため絵になります。小さな皿に、副菜などを少しづつ盛り付けて御膳に並べるだけで、旅館の朝食のようにも。平皿は、ワンプレートメニューにも活躍し、洗物品も少なくすむというメリットもあります。

窯元の個性が光る 日用品のうつわたち

「窯元によってデザインはさまざま。見た目がいろいろあるからこそ、料理がシンプルでも食卓が華やかになるんです」と小倉さん。日用品として歴史を重ねてきた荒尾・玉名のうつわは、まさに、上手に手抜きができる、今どきのうつわ。料理との相性に方程式がなく、想像を越えたものでもしくりくるのが、荒尾・玉名のうつわなのです。

さあ、うつわのある暮らしを自由に愉しんでみましょう。



-お話をうかがった方-

タブリエ (熊本県荒尾市) 小倉ゆかりさん

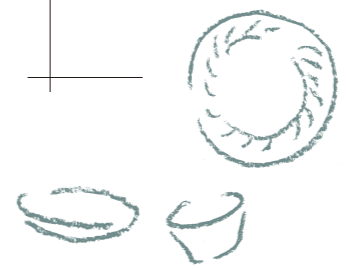
熊本のフランス料理店で休業後、渡仏。ワイン農家やフランス料理店で働く。帰国後、メニュー提案や商品開発に携わる。現在は、焼き菓子などを販売するお店「タブリエ」を経営している。



かわいいデザートも、組み合わせ次第でひと味違った雰囲気。焼き魚用かな? という長皿にだって、ばっちりマッチしちゃうんです。さあ、今日はどんなうつわで楽しみましょうか?

食事の時間が楽しくなる 日用品のうつわ

食事の時間の主役は、もちろん料理。そして、そこには「うつわ」が欠かせません。熊本県荒尾・玉名地域でつくられるうつわの特徴や、うつわと料理の相性など、「タブリエ」の小倉ゆかりさんに、お話をうかがいました。



五喜窯

「この青色を出すのに、十年かかりました」と坂本喜昭さん。釉薬系の釉薬を独自に調合して作り上げたコバルトブルーの器はさらさらとした手触りが心地良く、注ぐものによって色味も変化する人気の一品。喜昭さんは高校卒業後に一旦県外で就職したものの、幼い頃から好きだったものづくりの道を志し帰郷。末安窯にて修行した後、土木会社で土の勉強をし、平成二年に満を持して開窯しました。展示室は、ユニークな動物モチーフの器や一風変わったディスプレイなど、喜昭さんの遊び心でいっぱい。見て、使って、味わって。五感で楽しむ器探しを楽しんでみてください。

※釉薬：焼き物の表面を覆うガラス質。見栄えや手触りを左右する他、水分や汚れ、衝撃からうつわを守る役割があります。



gokigama

五感が喜ぶうつわを目指して



-information-

五喜窯 窯元: 坂本 喜昭
〒864-0166 熊本県荒尾市府本1759-3
☎️📞 0968-68-6215
🕒 9:00-18:00(12~2月は17:00まで)
🛑 不定休 🅇 3台



本誌 Instagram



小岱焼末安窯

幼い頃から父・英介さんの手伝いをしながら小岱焼に想いを馳せてきた末安洋介さん。地元の素材に拘り、「その産地に行ってみたくなるような焼き物」を心掛けて作陶しています。小岱山の土を自ら掘り出すことから始まる器づくりは、釉薬の原料も徹底して地元の藁や木灰を使用。展示場では、これまで多数の受賞歴を持ち、国内外で出展してきた英介さんの濃厚な作品や、遊び心をプラスし新しい小岱焼を提案する洋介さんの作品など、親子二代の表現を楽しむことができます。「どの器にも、使い方に決まりごとはありません。とにかく楽しんで使っていたければ」と洋介さん。



shodaiyaki sueyasugama

伝統の中にひとさじの遊び心を



-information-

小岱焼末安窯 窯元:末安 英介 末安 洋介

〒864-0166 熊本県荒尾市府本1712-2

☎☎ 0968-68-0058

🕒 9:30-18:00 🗓 不定休 🅇 P 5台

✉ sueyasugama@gmail.com

🌐 <http://www.sueyasugama.com/>



Instagram





力強い意匠に柔らかな彩りを

小代焼中平窯

親子で作陶している西川講生さん・智成さん。広い展示場には伝統的な素朴で力強い小代焼や、智成さんのユニークな動物の作品が並びます。中平窯のうつわ作りは、窯のすぐ裏手から採れる土を主原料とし、釉薬は全て中平窯独自の配合でブレンド。同じ原料を使っても一点一点色合いが異なるという青小代や、深みや高級感を持つ黒釉などの研究を続け、小代焼の多彩な表現を追究しています。「私たちがうつわを完成させることはできません。使っていただいて初めて、完成です」と講生さん。広い展示場ではお茶を飲みながらお二人の作品をゆっくりと楽しむことができます。



shodaiyaki nakaderagama



-information-

小代焼中平窯 窯元:西川 講生 西川 智成
〒864-0165 熊本県荒尾市樺1192
☎ 0968-68-7326 ☎ 0968-68-7153
🕒 9:30-17:00 (休) 水・木曜日 🅇 20台
✉ h0306tomonari@yahoo.co.jp
🌐 <http://www.nakaderagama.jp/>



Instagram





世代間で魅せる多様な陶技

しょうだい やき
小代焼ふもと窯がま

現存する小代焼の窯元では、最大級の登り窯を所有し、これまでに十人のお弟子さんが独立したふもと窯。多数の受賞歴を持つ井上泰秋さんは大皿など伝統的な小代焼の大作を、息子の尚之さんは中世イギリスの陶器・スリップウェアの技法を取り入れるなど、世代間で様々な陶技を見せます。展示室に併設された資料館にて小代焼四百年の歴史を紹介するなど、技術の継承や保存活動にも注力しています。庭の詩碑には泰秋さんと交流のあったという荒尾生まれの詩人・坂村真民の「念ずれば花ひらく」。世代で花開く小代焼に、是非会いに行ってみてください。



shodaiyaki fumotogama



-information-

小代焼ふもと窯 窯元:井上 泰秋 井上 尚之

〒864-0166 熊本県荒尾市府本1728-1

☎ 0968-68-0456 📞 0968-68-4476

🕒 9:00-17:00 📅 不定休

🅑 50台(バス可)



Instagram



しょうだい
小代
みずほ
瑞穂窯
がま

緑の敷地内、緩やかな石畳の坂を上がった右手に、雑貨店のような可愛らしい展示室。焼成の試験に使われていたという小屋に所狭しと並ぶのは、福田さんの独創性溢れるうつわの数々。るいさんは芸術学部で油絵を専攻した後、益子の島岡達三氏のもとで陶芸の修行を積みました。彫金や草木染などで体得した自然素材の使い方も作陶へ還元し、小代の赤土や瀬戸の白土を使い分け、色も形も様々な作品を生み出します。藁灰主軸の釉薬と拘りの焼成で出す深みある藍や楽しいネーミング、さっぱりと姉御肌な人柄。「瑞穂II たつぷりと実った稲穂」。使い手の心を瑞々しく潤すうつつわたちが待っています。



shodaimizuhogama

小代の風格に光るモダンの造形美



-information-

小代瑞穂窯 窯元:福田 るい

〒864-0014 熊本県荒尾市上平山914

☎ 090-4588-3665

🕒 10:00-17:00 (休) 不定休 (P) 有

✉ mizuhogama@gmail.com

◇展示会の御案内は Instagram から、お問合せはメールにてお願いします。



Instagram





古今東西の息吹香る 明るく楽しい器たち



-information-

小代本谷ちひろ窯 窯元:前野 智博

〒864-0131 熊本県荒尾市川登2131-74

☎ ☎ 0968-68-6459

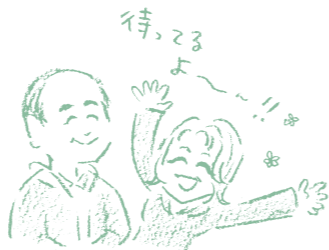
🕒 10:00-17:30 📅 不定休 📍 5台

✉ syoudai.chihiro@gmail.com

🌐 <https://chihiro gama.com/>



Instagram



清々しい竹林を抜けると、広い庭先にひよっこり姿を表す趣ある平屋。前野智博さんは二十七歳まで会社勤めをした後、一念発起し陶芸の道へ進みました。小代瑞穂窯にて七年修行した後、さらなる学びのため沖縄へ渡り、焼き物で有名な「やちむんの里」へ。様々な文化が入り混じる柔軟な環境で技法を大成させていきました。認定伝統工芸士として重厚な作品を創りつつ、小代の赤土に白化粧を施したり、金属を用いた釉薬を調合するなど、明るい現代風のアレンジも提案します。歴史と文化、そして豊かな自然。くつろぎのひと時を感じられる窯です。

shodaihontanichihirogama

しょうだいほんたにちひろがま
小代本谷ちひろ窯



存在は、心の癒し。愛され続ける縁起物



-information-

木の葉猿窯元 窯元:永田 禮三 川俣 早絵

〒869-0303 熊本県玉名郡玉東町木葉60

☎️ 0968-85-2052 🕒 8:00~19:00

🚶 無休 🚗 大型バス2台

◇当窯元の庭に歌人書家の會津八一の歌碑があります。

◇木の葉猿作陶体験できます。(要予約)



本誌 Instagram



木の葉猿窯元

手捻りの業だけで形作り、素焼きで完成される熊本県の伝統工芸品、木の葉猿。作り手である永田禮三さん、川俣早絵さん親子の息遣いがそのまま滲み出た作品は、多くの人を虜にします。悪病災難除け、子孫繁栄のお守りとして古くから親しまれてきた木の葉猿。その起源は一三〇〇年前と云われており「南総里見八犬伝」の表紙にも挿絵で登場している他、大正時代には「全国土俗玩具番付」で東の横綱にも選出。「ご先祖さまは本当に良い仕事を遺してくださいました。大切に受け継ぎます。」と禮三さん。その隣でニコニコと楽しそうに作陶する早絵さんの姿が印象的です。



konohazarukamamoto

小代焼 岱平窯

自宅で寛ぐようにゆっくりと器
 を選べる、岱平窯。小代焼の繁栄
 を築いた古小代の窯跡そばに昭和
 四十五年、初代・岱平氏が思いを
 寄せて開窯しました。「自分が生
 まれ育った地元の土を使いたい」と
 語る現在の窯元坂井博樹さん
 は、先代より小岱山の鉄分の多い
 胎土を使用し、釉薬は熊笹や藁、
 孟宗竹の灰を原料とした自然由来
 のもので手作りしています。杉や
 松を燃料に「割竹式登り窯」とい
 う竹を割って伏せたような形状の
 窯でじっくりと焼き上げ、その灰
 が産み出す変化も作品の持ち味の
 ひとつ。四季折々の自然の恩恵に
 感謝しながら『そっと寄り添うも
 のづくり』を心がけています。

自然美宿る そっと寄り添うものづくりを



shodaiyaki taiheigama



-information-

小代焼岱平窯 窯元:坂井 博樹

〒861-0834 熊本県玉名郡南関町宮尾470

☎ ☎ 0968-53-9245

🕒 10:00-16:00 📅 不定休 📍 P 5台

✉ taiheigama@gmail.com

🌐 <https://taiheigama.stores.jp/>



Instagram



素月窯

小高い丘に佇む素月窯の工房。松永真哉さんは、東京学芸大を卒業後、愛知県立窯業高等技術専門学校で学びました。その後日本最大の窯業地・美濃（岐阜）で作陶を続けました。豊かな自然に想いを馳せ故郷南関町に窯を移築してからも、月一度のペースで県内外の展示会に出展しています。普段使いの器や料亭用の器など、美濃の陶技をベースとした独特の作風が人気を呼んでいます。帰郷後も愛知県瀬戸の勉強会に属し学び続けている真哉さんの窯名は、中国唐時代の詩人・李白の歌から。「素月〓白い月のように瑞々しく新鮮な気持ちを忘れないように」と語ってくれました。



sogetsugama

故郷で花咲く

美濃の陶技



-information-

素月窯 窯元:松永 真哉

〒861-0822 熊本県玉名郡南関町上坂下3205

☎ 090-3482-0944

🕒 10:00-17:00 📅 不定休 🅇 4台

◇お越しの際はお電話ください。



Instagram





山奥の作陶場は、少年の遊び場。

末吉窯

自然をこよなく愛し山奥に窯を構えた長野末吉さん。川の流れや雲の動きからもデザインのリントをもらい、刷毛目や粉引きなど様々な技法で印象的な作品を作り上げます。天草出身の末吉さんが陶芸に出会ったのは、高校一年生のとき。「下校途中に見かけた窯元さんが仕事する姿に見入っちゃってね。それからは学校が終わると自転車で片道九キロ、勉強させてもらいに通ったよ」と懐かしみます。作陶への飽くなき探求心は、作業場の壁一面の古書にも垣間見えます。いつまでも少年の心を忘れない末吉さんの作品、これからも楽しみます。



sueyoshigama



-information-

末吉窯 窯元:長野 末吉

〒861-0834 熊本県玉名郡南関町宮尾1768-207

☎️📞 0968-53-8770

🕒 9:00-20:00 📅 不定休 🅇 P 5台



本誌 Instagram





「食」から生まれるおいしいうつわ

陶房丸山

小岱山のふもと、標高百メートルほどの長閑な里山に佇む陶房丸山。丸山修さんのギャラリーには、普段つかいのうつわや花器、ランプシェードなどが並びます。修さんのうつわ作りは、使うシーンを想像することから。奥様の料理を見ながら着想することもあって、遊び心溢れる模様も作風の一つ。「どうやって付けた模様なのか、想像するのも楽しい」とよと笑顔の修さんは、ギャラリーも自ら民家を改装し、什器も川で拾った流木をアレンジするなど、何事も創意工夫で楽しむ人です。陶房の目の前には、美しい里山の景色に鳥の声。ホッと一息、寛げる場所です。



touboumaruyama



-information-

陶房丸山 窯元:丸山 修
 〒865-0009 熊本県玉名市三ツ川4559
 ☎☎ 0968-74-9087
 営業 9:00-17:00 休 不定休 P 3台
 ◇お越しの際はご連絡ください。



Instagram





伝統・古松風の再興と発展を

しょうだい まつ かぜ やま の だ が ま
小代松風焼野田窯

文献と作品を頼りに、伝統・松風焼の継承と発展に取り組んでいる野田義昭さん。松風焼は、昭和十二年から五十年もの間閉窯していました。義昭さんは二十五歳のときに再興を志し、勉強のため焼き物の盛んな韓国に渡ります。基本的な技術を学んだ後、兵庫県芦屋の滴翠美術館陶芸研究所で三年間研鑽を積み、昭和六十三年、満を持して開窯しました。地元の高校では陶芸の教鞭を執るなど、技術の継承にも力を注ぐ義昭さん。「先祖の作品に迫るようなものを作りたいですが、同時に新しい手法も求めて努力していきたいです」と語ってくれました。



shodaimatsukazeyakinodagama



-information-

小代松風焼野田窯 窯元:野田 義昭

〒861-0803 熊本県玉名郡南関町関町1566

☎️📞 0968-53-1531

🕒 10:00-17:00 (休) 火・金曜日・不定休 🅇 10台

✉️ matsukazeyakinodagama@gmail.com

◇陶芸教室やっています。(要予約)



Instagram





赤いうつわで 日常にハレを

三池焼

吸い込まれそうな紅が特徴の、三池焼のうつわ。焼き物の中で特に出しにくい色の一つとして知られるこの色に日々対峙しているのは、中村秀昭さん。辰砂釉という中国由来の釉薬を独自に調合して焼き加減を整え、濃淡や質感が異なる様々な赤を生み出します。「窯の炎は気まぐれ。狙った赤が出ないこともあれば予想以上の出来になることも」と秀昭さん。赤以外にも薄紫や薄緑など、淡い色合いの器も手掛けます。パツと場が華やく赤のうつわは、日常をにハレをもたらしてくれそうです。奥様の知子さんが作る陶人形や陶器アクセサリーも人気を呼んでいます。



miikeyaki



-information-

三池焼 窯元:中村 秀昭
〒861-0801 熊本県玉名郡南関町関外目1446-4

☎ F 0968-53-2011 営 9:00~20:00

休 無(イベント出展時のみ休) P 8台

✉ info@miikeyaki.net

HP http://www.miikeyaki.net/

◇陶芸体験できます。(要予約)



Instagram



小代焼一先窯

伝統的な小代焼に新しい表現を融和させる山口友一さん。重厚感のある小代焼薬灰釉を独自の技法でシャープなフォルムに仕上げた作品や、優しく暖かい印象のつぶ化粧白釉などオリジナルの表現を展開しています。

工房近くの田んぼから製出した薬灰や地元長洲町の土を用いるなど先代から受け継いだ素材、技法を大切にしています。

友一さんは小代焼窯元の家に生まれて子供の頃から親しんできたからこそ、今の世代に伝わる自分らしい小代焼を作りたい、という想いがあります。そして作品と共に年月を過ごす使い手に寄り添い、より深みや奥行きを感じていただけるような器づくりを目指し、日々作陶しています。



shodaiyakiissakigama

”伝統と現代を併せ持つ器“を目指して



-information-

小代焼一先窯 窯元:山口 友一

〒869-0106 熊本県玉名郡長洲町永塩1612-3

☎️📞 0968-78-5631

🕒 11:00-17:00 📅 不定休 📍 5台

✉️ issakigama@gmail.com

◇お越しの際はご連絡ください。



Instagram





自然の中、炎の気まぐれに任せて



-information-

田原弓陶房・美歩志窯 窯元:田原 弓

〒861-0834 熊本県玉名郡南関町宮尾1768-122

☎️📞 0968-53-8406

🕒 10:00-18:00 📅 休 不定休 🅕 5台

🌐 <http://mihosigama.s151.xrea.com/yumi/>



田原弓陶房・美歩志窯

さらさらとした風合いに焼き上げる「焼締め」技法を得意とする田原弓さん。二十歳の頃、刷毛目に絵付けを施す二川焼の復興を目指すメンバーの一員として声を掛けられ、陶芸の道へ足を踏み入れました。焼締めの修業を積んだ後、荒尾で開窯。その後、より良い作陶環境を求め南関町の山奥に窯を移築しました。「焼締めは一週間以上火を焚きっぱなしで体力も使わず、仕上がりの予想も難しい。でも釉薬とは違った自然の景色の面白さがあります」と弓さん。炭と一緒に密封し焼き上げる炭化焼成など、自然の中で炎の気まぐれが作り出す美しい焼き物の姿を大切にしています。



taharakyutoubou mihoshigama



吹き抜けに広がる「まもるワールド」

まもる窯 がま

「まもる窯」の手描き看板を辿ると竹林の中に見えてくる、町工場のような建物。ここには徳永護さんの遊び心が詰まった空間が広がっています。幼少の頃訪れた有田陶器市で職人を見て感動したのが、護さんのものづくりの始まり。ふもと窯で二十年間修行を積み、独立。コバルトなどの鉱物を用いた独自の釉薬で出す青や前衛的なデザインが人気です。「狙った色を出すのは本当に難しい。売り物にならないものほど良い色が出てたりするんですよ！」と豪快に笑う護さん。パワフルでチャームिंगな人柄と、独特の作品が繰り広げる、楽しい空間が待っています。



mamorugama



-information-

まもる窯 窯元:徳永 護

〒861-0836 熊本県玉名郡南関町九重1038-1

☎ 0968-82-8815 ☎ 0968-82-8816

🕒 10:00-18:00 📅 不定休 📍 7台

◇お越しの際はお電話ください。



Instagram



イベント・展示会

◀花ぶらす館窯元展
(道の駅「おおむた」)

合同出展
ならどはの
ポリューム4!!

▲花しょうぶまつり
窯元展
(玉名市高瀬蔵)

▲なんかん古小代の里 陶器・梅まつり
(南関町)

振興会のみんなが
交代に店番にいます♪

～会期中でも作陶できる
協力体制～

◀古墳の里
窯元展
(道の駅さくすい)

～Instagram発信中!～

かまもんのInstagramで、イベント
情報や作品紹介など荒尾・玉名地域
の窯元の情報を発信しているよ!



陶芸かまもん | Q

※写真は全て令和4年
2月以前開催のものです

とにか
手に取っていただける
機会を作っています

とりこみ

荒尾・玉名地域の焼き物のPRのため、
展示会を主催したり、県内外のイベント
に合同出展したりと、たくさんの人に見
て触れていただく機会を作っています。
SNSの相互発信も協力して行っています。

～片寄せつまみ急須～

片手で注ぐ際、親指で押さえる
やすいよう蓋の端にツマミの
ある急須。手の小さい人も簡
単に注げます。

ユニバーサル
デザイン陶器にも
取り組んだよ!



はじまり

熊本県有数の窯元集積
地である荒尾・玉名地域
の窯元が集まり、平成14
年に発足。協力して窯元
を盛り上げていこうとい
う動きが生まれました。

荒尾・玉名地域の
窯元を盛り上げるばい!!



会長・丸山 修
(陶房丸山)

荒尾・玉名地域を象徴する山で、
小代焼発祥の地。質の良い赤土が
採れます。



荒尾・玉名
地域は
ココ!



荒尾・玉名地域窯元振興会
マスコットキャラクターかまもん

荒尾・玉名地域 窯元 振興会 ～Since 2002～

ポワが
案内
するよ!



荒尾・玉名地域窯元振興会

会長：丸山 修(陶房丸山) 〒865-0009 熊本県玉名市三ツ川 4559 TEL:0968-74-9087

事務局：中村 秀昭(三池焼) 〒861-0801 熊本県玉名郡南関町関外目 1446-4 TEL:0968-53-2011

発行：熊本県県北広域本部玉名地域振興局 総務振興課 令和5年1月

荒尾・玉名のいいいうつわ インスタグラム▶

